

愛川町教育委員会

令和4年11月22日

愛川町教育委員会 11月定例会会議録

- 1 会議日程 令和4年11月22日（火）
午前9時00分から午前9時54分まで
- 2 会議場所 愛川町役場201会議室
- 3 議事日程
日程第1 会議録の承認について
日程第2 教育長報告事項について
（1）教育長報告
日程第3 令和4年度一般会計補正予算（教育関連）について
（議案第17号）
日程第4 令和4年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価結果報告書（令和3年度事業対象）について （議案第18号）
日程第5 その他
（1）令和4年度全国学力・学習状況調査の結果と今後の展望について
- 4 出席委員
教育長 佐藤 照明
教育委員（教育長職務代理者） 大貫 洋
教育委員 梅澤 秋久
教育委員 齊郷 浩之
- 5 欠席委員 教育委員 篠崎 美和
- 6 説明を要した者及び議事録作成のため出席した者
教育次長 中村 美雪
教育総務課長 宮地 大公
指導室長 前盛 朋樹
教育開発センター所長 瀧 喜典
生涯学習課長 上村 和彦

スポーツ・文化振興課長
教育総務課主幹

松川 清一
阿部 成彦

◎開会

- （佐藤教育長） 皆さん、おはようございます。

本日の会議の出席者は、4名であります。定足数に達しておりますので、愛川町教育委員会11月定例会は成立いたしました。

よって、これより開会いたします。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりでありますから、ご承知願います。

これより日程に入ります。

◎日程第1

- （佐藤教育長） 日程第1、会議録の承認についてを議題といたします。

10月定例会分でございますので、会議録については既に配付のとおりであります。

これより質疑に入ります。

ご意見、ご質疑ありましたらお願いいたします。

（発言する者なし）

- （佐藤教育長） よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

- （佐藤教育長） 特にないようでございますので、質疑を終結し、表決に入ります。

日程第1、会議録の承認について、本案を原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

- （佐藤教育長） ご異議ないものと認めます。

よって、日程第1、会議録の承認については原案のとおり承認されました。

なお、定例会終了後に会議録署名原本をお回しいたしますので、委員の方は署名をお願いいたします。

◎日程第2

- （佐藤教育長） 日程第2、教育長報告事項についてを議題といたします。

初めに、教育長報告について、資料1に基づき報告をいたします。

10月26日から11月21日までの間に出席いたしました主な会議等について報告をいたします。

10月26日、小中学校教頭会議。

午後、東海大学を訪問しまして、不登校の研修会に来ていただいております芳川先生と面会をさせていただき、今後の不登校対策について協議をいたしました。

27日、第2回社会教育委員会議。

28日、議会臨時会。

29日、愛川町福祉表彰式。

夜、宮ヶ瀬ダムのナイト放流ということで、8,000人を超える応募の中、約1,000名が今回当選されてナイト放流に来ておりました。全体的にとってもよかったなと思っております。

31日、厚木警察署長訪問。駅伝関係や成人式等の内容を説明してまいりました。

11月2日、教職員面接。臨時的任用職員の面接をさせていただきました。

県央教育事務所の所長さんが来室されました。

3日、町表彰式。教育委員会では、平田前教育委員さん、榮利前教育委員さんが表彰されております。

4日、小学校連合音楽会。今年度はコロナの関係で全体では集まらず、中学校区ごとに開催するというので、今回、半原小学校に田代小学校が行きまして合同で音楽会を開催しましたので、見学に行つてまいりました。とてもいい雰囲気の中で発表会をしており、町文化会館での開催も一つの方法ですけれども、こういう形で2校が集まって開催するのもとてもいいなと思いました。音楽会終了後、グラウンドで交流会のドッチボールをやっており、とてもいい雰囲気の中で終わったように思います。

夕方、全国大会出場奨励金の交付を行いました。今回は、ねんりんピックがございましたので、ねんりんピック出場予定の方がメインでございました。6名の方に奨励金を交付させていただきました。

6日、春日台区の文化祭に行つてまいりました。前日の5日は催物がたくさんあったようですけれども、6日については文化展がメインで区民の皆さんの作品が展示されており、それを見てまいりました。

それから、第7回MOA美術館愛川児童作品展の表彰式に教育長賞がございましたことから参加をいたしました。3年ぶりの参加ということで、やや作品数は少なかったかようです。

が、力作が展示されておりました。

7日、高齢者叙勲伝達式ということで、元半原小学校の校長先生が受賞されましたので、愛川町で伝達式を行いました。

9日、アイカワミライエ最終審査。今年度、総務課で行っておりますアイカワミライエの作品審査をいたしました。400点を超える作品が集まっており、その中の30作品を選出するというので、この日はその最終審査に立ち会いました。

10日、県市町村教育長連合会第2回の幹事会・総会が大和市でありました。

11日、教職員面接、臨時的任用職員の面接を行いました。

全国大会出場奨励金の交付。第2回目になります。ねんりんピックに参加した方がメインで約10名に交付をさせていただきました。

12日、ねんりんピックかながわ2022将棋交流大会。開会式が文化会館でありました。

13日、愛川華道協会展がございまして、中津公民館に行っていました。

宮本区の「区民のつどい」がございまして、子ども達も多く参加しており、非常に生き生きとした楽しい時間を過ごしておりました。

14日、ねんりんピックかながわ2022交流大会表彰式。閉会式が第1号公園でございましたので、参加をいたしました。

15日、県央教育事務所管内教育長会議。

16日、新型コロナウイルス感染症対策本部会議。県の対策会議の結果を受けて、共通理解のための本部会議を行いました。

厚木愛甲地区管理職組合の執行委員長が来室され、来年度に退職される校長先生方の意向等のお話を聞かせていただきました。

子育て中の親と町長との懇談会に参加をいたしました。

17日、中学生のための税の作文についての表彰があり、愛川東中学校の生徒が教育長賞を受賞されましたので、学校に行き表彰をしました。

18日、連絡調整会議。

県市町村教育委員会連合会の研修会が茅ヶ崎市民文化会館でありましたので、大貫委員と一緒に参加をさせていただきました。

19日、落語二人会ですが、この日は欠席をさせていただいております。満席ということで成功裏に終わっていると聞いております。

21日、行政経営会議。

午後、県社会教育委員連絡協議会の地区研究会が町文化会館で行われました。15年に1度、回ってくる発表であります。人のつながり・文化の継承という2つのテーマで社会教育委員の皆さんが発表されました。参加をされている方々が大変すばらしい発表であったということで、好評をいただきました。

以上でございます。

それでは、ご意見、ご質疑ありましたらお願いいたします。

(発言する者なし)

○(佐藤教育長) 特によろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○(佐藤教育長) 特に質疑ありませんので、教育長報告についてはご了承願います。

◎日程第3

○(佐藤教育長) 日程第3、議案第17号 令和4年度一般会計補正予算(教育関連)についてを議題といたします。

町歳入歳出予算のうち、教育に関する事務に関わる部分について、議会議決を得るべき議案を作成する場合には、地方教育行政法の規定により、町長は教育委員会の意見を聴取することとなっております。

このため、12月議会に提出するに当たりまして、教育関連の補正計上を行いましたものについて、別添資料に基づき説明するものであります。

なお、詳細につきましては、担当より説明を申し上げます。

教育総務課長。

○(宮地教育総務課長) 日程第3、令和4年度一般会計補正予算(教育関連)についてでございます。

愛川町教育委員会会議提出議案第17号 令和4年度一般会計補正予算(教育関連)について、ご覧をいただきたいと思います。

1枚おめくりをいただきたいと思います。

教育総務課から説明をさせていただきます。

教育総務課につきましては、歳出のみの補正でございます。

上からご説明をさせていただきます。科目 9.2.2.2.1.10.2.1、プロパンガス等使用料でございます。補正前の予算額は755万円、今回補正を要求したいと考えておりますのが94

万2,000円でございます。したがいまして、補正後は849万2,000円になると考えております。

補正の理由でございますが、燃料費高騰のため、小学校給食室内で使用するプロパンガス・都市ガス代に不足が見込まれることから、増額補正をしたいものでございます。計算式といたしましては、決算見込額849万2,000円から当初予算額755万円を引きました94万2,000円を補正予算として計上したいと考えております。

続きまして、9.3.1.5.1.10.5.2、各中学校施設水道使用料でございます。補正前の予算額は331万円、今回補正をしたいと思っておる額は118万9,000円、したがいまして、補正後は449万9,000円ということでございます。

補正の理由でございますが、授業や部活動でのプール使用回数の増加や、猛暑で水温を下げるために加水を多く行ったため、水道使用料に不足が見込まれることから、増額補正をしたいものでございます。決算の見込額449万9,000円に対しまして、当初予算額331万円を引いた額、118万9,000円を増額補正したいと考えております。

その下、9.3.1.5.1.10.5.3、各中学校施設下水道使用料でございます。補正前の額は236万6,000円、補正したい額が90万9,000円、補正後の予算額は327万5,000円でございます。

こちらの理由も水道使用料と同様でございます。授業や部活動でのプール使用回数の増加や、猛暑で水温を下げるために加水を多く行ったことから、下水道使用料に不足が見込まれることから、増額補正をしたいものでございます。決算見込額327万5,000円から当初予算額236万6,000円を引きました90万9,000円を増額補正したいと考えております。

その下、9.3.1.4.1.17.1.1、愛川東中学校階段昇降機購入費でございます。補正前は予算はついておりませんでした。補正額は375万1,000円、したがいまして、補正後は375万1,000円でございます。

愛川東中学校において、令和5年度の始業式までに、車椅子用階段昇降機を購入したく、増額補正をしたいものでございます。備品購入費、階段昇降機1台分375万1,000円を増額補正したいものでございます。

その下、9.3.1.6.1.14.1.8、愛川東中学校トイレバリアフリー改修工事でございます。こちら補正前は予算がございませんでした。今回、330万円を補正予算で計上したいと考えております。したがいまして、補正後は330万円ということでございます。

理由でございます。愛川東中学校において、令和5年度の始業式までにトイレのバリアフ

リー改修工事を実施したく、増額補正をするものでございます。こちらは、車椅子用のトイレのブース、スライドブース、それとスペースを広げるためのトイレ改修です。それと、手洗い場を車椅子の方が使っても手が洗えるような、そういった手洗い場を同時に改修します。これらの改修工事費に330万円を増額補正したいと考えているところです。

したがって、補正額全体では、教育総務課といたしましては1,009万1,000円を補正額として予算計上したいと考えております。

なお、一番下でございます。債務負担行為ということで、親子給食運営事業費、期間は令和5年度から令和7年度まで、5億7,328万3,000円を債務負担行為として設定をしたいと考えております。

こちらにつきましては、学校給食の調理業務、配膳補助業務、給食配送業務について、現契約が令和5年7月、あるいは8月末で満了を迎えるに当たりまして、管理体制の円滑な切替えと安定的な運営のため、本年度、令和4年度中に次期契約業者の選定手続を進めたいことから、債務負担行為を設定するというところでございます。

この金額の内訳でございますが、給食調理業務委託料といたしまして限度額が4億8,938万7,000円、親子給食配膳補助業務委託料、こちら中学校でございますけれども、限度額が3,052万円、それと親子給食配送業務委託料、こちら中学校費でございますが、限度額が5,337万6,000円ということで、全て合計いたしますと、5億7,328万3,000円。こちらを債務負担として設定をしたいということでございます。

説明は以上でございます。

- （佐藤教育長） 生涯学習課長。
- （上村生涯学習課長） 続きまして、生涯学習課の補正関係の予算をご説明申し上げます。生涯学習課、全て歳出でございます。

9.4.4.3.1.10.2.1、文化会館冷暖房用灯油代でございます。こちら補正前の金額は325万4,000円、144万6,000円を補正したいと考えておりまして、補正後の金額につきましては470万円でございます。

こちらは、原油価格高騰等に伴いまして冷暖房用灯油代が増加する見込みでありまして、増額補正をしたいものでございます。文化会館分の冷暖房用灯油代の決算見込額470万円に対しまして、当初予算額325万4,000円でありますことから、差額の144万6,000円について増額の補正を行うものでございます。

続きまして、2段目でございます。9.4.4.3.1.14.1.6、文化会館タイル改修工事ござい

ます。こちらは補正前の金額はゼロ円、3,850万円を補正しまして、補正後の金額3,850万円となっております。

こちらの内容ですが、文化会館かえで広場及び正面入り口前のタイルにつきまして、今年度に入りまして、老朽化に伴い剥がれや浮きが進行しております。こうしたことから改修工事を行い、安全性の向上を図るものでございます。

工事内容といたしましては、タイルの張り替えでございます。既存のタイルを撤去し、処分する分も含んでおります。工事の範囲は、かえで広場と正面入り口前、合計しまして面積は1,072平米でございます。工期につきましては約6か月を要します。2月、3月は準備期間としまして、実際には4月から7月にかけて張り替え工事を実施する予定でございます。

なお、セメントの性質上、霜が降りる時期には施工ができません。こうしたことから、工期が2か年度にわたりますことから、繰越明許費を併せて設定するものでございます。

説明は以上でございます。

- （佐藤教育長） スポーツ・文化振興課長。
- （松川スポーツ・文化振興課長） それでは、スポーツ・文化振興課所管の歳出予算についての補正予算の説明をいたします。

科目は9.4.6.1.2.18.16.1、合築設備負担金と申しまして、こちらは郷土資料館の光熱水費に係る負担金とご理解ください。補正前の金額698万8,382円、補正額が211万9,000円、補正後の金額は910万7,382円で補正の計上を予定しております。

補正の理由につきましては、他の光熱水費同様、原油価格の高騰に伴いまして電気使用料が予算現額を上回る見込みになりましたことによるもので、補正をしたいものでございます。

なお、補足で説明いたしますと、この光熱水費につきましては、郷土資料館が所在いたします県立あいかわ公園の光熱水費、こちらを宮ヶ瀬ダム周辺振興財団が一括して支払うものでございまして、当郷土資料館の使用分のみ負担金として財団へ支払っているものでございます。

説明は以上でございます。

- （佐藤教育長） これより質疑に入ります。
ご質疑、ご意見がありましたらお願いいたします。

梅澤委員。

- （梅澤委員） スポーツ・文化振興課の表記ミスについて、単位が千円となっているので、

千円の単位にしてしまうと、補正額は 21 億円とかになってしまいます。表記を単位に合わせたほうがよろしいかなと思われま。

以上です。

○（佐藤教育長） ありがとうございます。

それでは、訂正をお願いしたいと思います。

他にいかがでしょうか。

（発言する者なし）

○（佐藤教育長） 物価高騰・原油価格等の高騰に伴う補正かと思えますけれども、よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○（佐藤教育長） 他に質疑ありませんので、質疑を終結し、表決に入ります。

議案第17号 令和4年度一般会計補正予算（教育関連）について採決をいたします。本案を原案のとおり決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」との声あり）

○（佐藤教育長） ご異議ないものと認めます。

よって、議案第17号 令和4年度一般会計補正予算（教育関連）については、原案のとおり可決されました。

◎日程第4

○（佐藤教育長） 日程第4、議案第18号 令和4年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価結果報告書（令和3年度事業対象）についてを議題といたします。

この点検・評価結果報告書については、前回定例会において確認をいただきました教育委員会の考え方について取りまとめたものとなりまして、本日最終決定をしていただくものがあります。

前回定例会で提示した修正部分等について、担当から説明させていただきます。

教育総務課長。

○（宮地教育総務課長） 日程第4、令和4年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価結果報告書（令和3年度事業対象）についてでございます。

愛川町教育委員会会議提出議案第18号をご覧いただきたいと思えます。

こちらですけれども、先に教育委員の皆様からいただきましたご意見を取りまとめさせて

いただき、修正を加えさせていただいております。

前のご意見では、資料 41 ページをご覧いただきたいと思いますが、こちらにつきまして、教育委員の考え方（今後の取組）のところでございますけれども、丸の一つ目にある「電子図書館」を「電子図書」として修正をさせていただいております。

2点目は、ご意見といたしまして、全体の文体について統一を図った方がいいのではないかとということでしたので、語尾等を含めまして統一感を図らせていただいております。

以上、ご意見ありましたところを修正させていただき、今回提出をさせていただきます。

なお、こちらの原案につきましては、皆様からお認めいただきました後に、12月議会の最終日、12月14日になりますけれども、議員のみ全員協議会で、こちらの資料を議員の皆様へ配付をし、ご報告に代えさせていただく予定でございますので、ご承知おきをお願いいたします。

説明は以上であります。

○（佐藤教育長） これより質疑に入ります。

ご意見、ご質疑等ありましたらお願いいたします。

修正は、今回1か所ということになっております。他にもし気がつかれた点がありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

（発言する者なし）

○（佐藤教育長） よろしいでしょうか。

○（齊郷委員） 12ページですけれども……

○（佐藤教育長） はい。どうぞ。

○（齊郷委員） 12ページの5月28日のところは、関東甲信越、この「静」という字は入っているんですか。

○（佐藤教育長） 教育総務課長。

○（宮地教育総務課長） 関東甲信越静、「静」という字が入るかということですね。

○（齊郷委員） そうです。

○（宮地教育総務課長） はい、入ります。

○（佐藤教育長） 静岡もここは入るんですね。

○（宮地教育総務課長） そうですね。

○（佐藤教育長） 関東甲信越静岡市町村教育委員会でございます。

他にいかがでしょうか。

(発言する者なし)

○(佐藤教育長) よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○(佐藤教育長) それでは、特に質疑等ございませんので、質疑を終結し、表決に入ります。
議案第18号 令和4年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価結果報告書
(令和3年度事業対象)について、本案を原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

○(佐藤教育長) ご異議ないものと認めます。

よって、議案第18号 令和4年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価結果報告書(令和3年度事業対象)については、原案のとおり可決されました。

◎日程第5

○(佐藤教育長) 日程第5、その他を議題といたします。

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果と今後の展望についての説明をお願いいたします。

教育開発センター所長。

○(瀧教育開発センター所長) 資料2をご覧ください。

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果と今後の展望についてでございます。

今年度の調査では、平成30年度以来となる理科も実施されております。

1、町内児童・生徒の教科に関する調査結果についてであります。小学6年生について、国語、算数、理科とも全国・県と比べて、10%以上下回っておりまして、正答数分布も山が左に寄っている状況であります。

中学3年生については、国語、理科とも全国・県をやや下回っており、数字においては、全国・県と比べて10%以上下回っておりまして、正答数分布も山が左に寄っている状況であります。

領域別に見ますと、国語の「話すこと・聞くこと」、「読むこと」については、小学6年生、中学3年生ともに全国・県を下回っていて、特に小学6年生の「書くこと」については、全国や県を大きく下回っており、課題と捉えております。

小学6年生の算数では、「思考・判断・表現」に伴う問題を不得意とする傾向が見られました。

中学3年生の数学では、「素因数分解をする」の問題の正答率が35.6%、全国は52.2%、「連立二元一次方程式を解く」の問題の正答率が52.3%、全国は74.5%など、「知識・技能」の基礎的な理解が不十分な状況であります。

また、小学6年生の理科において、器具の操作方法など、基礎的な問題ができていないことも特徴として挙げられます。

続いて、改善策についてです。

各校において、調査結果を分析し、改善策が挙げられています。

例えば国語では、自分の考えや思いなどを書く機会を増やし、お互いに見合うことで誤字脱字など気をつけるように指導していく。算数・数学では、スキルタイムを活用して、多くの課題に取り組む時間をつくり、計算等に慣れさせるなど。理科では、他者と関わり合いながら、考察をする時間を確保するなどの改善策が学校から挙げられております。

続いて、町内児童・生徒の質問紙調査に関する結果についてでございます。

昨年度と比較するために、令和3年度と同じ項目で比較してみました。

「平日にどれぐらいの時間、テレビゲームをしますか」という質問に対して、「3時間以上4時間未満」、「4時間以上」の回答を合わせると、小学6年生では50.7%、中学3年生では44.1%、約半数の児童・生徒が平日3時間以上のテレビゲームをしているという結果になります。

「学校の授業時間以外に、1日当たりどれぐらいの勉強をしていますか」という質問に対しては、「全くしない」、「30分未満」の回答を合わせると、小学6年生では27%、中学3年生では26.6%となり、児童・生徒の約4人に1人が平日あまり勉強をしていないということが分かります。調査結果より、依然として町の児童・生徒は、テレビゲームに費やす時間が多く、勉強時間が少ないことが分かります。

最後に、今後の展望になります。

町では、1人1台のタブレット端末を配付し、授業での活用に取り組んでおり、持ち帰りも推奨しております。「ほぼ毎日授業で使用している」と回答した6年生の割合が39.9%、全国の26.7%と比べても多く、また、昨年度より23%増えている状況であります。各校でのICT活用が他の自治体より進んでいることが結果として出ております。この取組が学力向上につなげていけるよう、授業を実施する指導者がその利点を生かすよう認識して、教材研究をしていくことが重要と考えております。

また、各校の分析が次につながるよう、校内において児童・生徒につけたい力は何なのか

を確認すること、自らの学習を調整する態度を育成することが大切であり、児童・生徒一人一人のつまづいているところを把握・分析、また、ICT機器を活用しながら習熟の程度に合わせた問題を作成することも手だてと考えております。各家庭においても、各自のペースで理解しながら学習を進めていくことができるよう、学校、家庭の連携も必要であると考えております。

説明は以上でございます。

- （佐藤教育長） これより質疑に入ります。

ご質疑、ご意見等がありましたらお願いします。

梅澤委員。

- （梅澤委員） まず、左側の調査結果についてです。

中央値ということがありますが、一方で、点線の丸で囲まれているところ、これはピーク値かなと思うんですね。どちらをおっしゃりたいのか、ピーク値であれば見れば分かるものなので、特段必要ないのかなと。つまり中央値（メディアン）が国語8問ならば、8問のところ縦線を引いて、全国が10問であって、そこに中央値のサンプルがあるということを見せた方がよいのかもしれない。もし仮にこのピーク値に丸をつけるならば、小学校の理科、ピークではないところに丸がついているように思われるので、その修正が必要かなと思われれます。

- （佐藤教育長） ありがとうございます。

- （梅澤委員） 中央値（メディアン）を示すことも重要ですが、やはりこの分散が広い、つまり格差が大きいということを分析対象とすべきかなというのが私の見解です。つまり、もう二山になっていたりするところ、これは全国に比べると、非常に顕著に表れているところだと思うので、そのあたりの格差をどうするかという改善策が今後必要なのではないかと思われれます。

加えて、改善策についてです。

学校から挙がってきた具体例ということですが、本当によく問題を理解されて記載されている学校と、恐らく問題をやっていないんじゃないかなと思われるような先生方の記載が混在しているのが事実かなと思われれます。現在、基礎・基本的な問題はほぼ減ってきて、かなり総合的に知識を活用したり、思考力・判断力を問うような問題ばかりになっていると思われれます。

であるにもかかわらず、誤字脱字に気をつけるとか、基礎・基本の定着を図るとかいうと

ころの記載が頻繁に見られるというのは、少々この全国学力・学習状況調査の変化に対応できていないと見てとるのが妥当かなと思われま。ともあれ知識・技能をいかに活用するか、あるいは複数の文章からどう変わったかを見て、それについて考察できるような、そういう力がここで求められているような中で、より一層教育方法の転換を求める必要があるかなと思ひます。

さらに、教育方法の転換がICTを使えばいいかのような、そういう記載もかなり繰り返し見られています。ICTはあくまでも手段であって、そのような思考力を発揮するようなそういう教育方法の中で使わなければ、これらの低い数値は変わらないだろうと思われま。ぜひ指導室、教育開発センターからは、そのあたりの指導・助言をしていただけるとありがたいなと思ひます。

以上です。

- （佐藤教育長） 今のご意見に対してどうでしょうか。
- （瀧教育開発センター所長） 確かに今求められている力に対するという部分でご指摘を受けたところは、先生方の意識がまだ薄いところもあるのかなと思ひます。また、この後、校長会等がありますので、そういったところで校長先生方にもお伝えしながら、授業改善、学習意欲及び学力の向上という部分で、町の子ども達に力がついていくように、こちらで支援していきたいと思っております。ありがとうございます。
- （梅澤委員） 町の研修等で、小学生、あるいは中学校の全国学力・学習状況調査の試験をほんの10分やそこらで先生方がやるというのはいいかもしれませんね。小学6年生を担当しないと、これを見ないですし、中学3年生を担当しないと、ほとんどの先生が見ていないと思うんですね。
一方で、「えっ、こんな問題を実はやっていたのか」というところに、多くの先生に気づいてもらうこと。最も思考力・判断力、あと表現力ですね。文章表現、「50文字から80文字で記述しなさい」みたいなことも小学生ですら出ていますので。そのあたりを実体験してもらいながら、では授業をどう変えていくかみたいな、そんな研修が必要なのかなと思われま。ぜひ、よろしくお願ひします。
- （佐藤教育長） ありがとうございます。

実体験、本当にそうですよね。やはり小学6年生、中学3年生、担当している教科担当は分かると思うんですけども、実際にそうでない学年というのは、その学年を見ないとなかなか問題も見えていないということは実際にあります。今週、校長会がありますので、その

時に、不登校対策と学力向上についてを特に取り上げてお話をしていこうかなと考えております。今、梅澤委員さんがおっしゃられたことについては、前向きに取り組んでいきたいと思っております。

他にいかがでしょうか。

大貫委員さん、何かありますでしょうか。

- （大貫委員） 梅澤さんのおっしゃるとおりなんですけれども、私はもう一つ見方を変えて、いつも学校でiPadのようなICTを使ってやっている授業体系とか、その授業を受ける姿勢があるから、うちへ帰ってテレビゲームみたいなものを長くやれちゃうんじゃないの、やれちゃうというか、もうそういうふうなものを見ても、ずっとやられているような体験を学校でやっているの、そういう受け身の姿勢で、うちへ帰ってもずっとやっちゃうとか、やれちゃうとかね。そういう数字が、1日平均3時間以上やっちゃっているみたいなものも影響しているのかなというふうに、これ読み取れるんですよ。

それから、もう一つは、改善策で例えば筆順だとかそういったようなもの、ICTを活用して取り組むとっているけれども、今後の課題の中に、ICTで筆順だとかそういったようなもの確認させるといっているながら、今後の展望の中では、児童一人一人の活用するのは伸びているので、使っている、何かここは私、読んでいて整合性がないような気がしているんですよ。うまく言えないけれども、これから取り入れて一生懸命そういうふうなことをしますと言っているながら、今後の展望では、昨年よりも、あるいは全国よりも使用が伸びているとって、もっと言うんだったら、改善策に反映するんじゃないかなと、この表現は、もっとうまくまとめられないかなと読んでいて思ったんですね。発表するわけだからね。ずっと読んでいて思いました。

一つ、学校訪問へ行って、国語の授業だったと思うんですけれども、左利きの子がタブレットを見ながらやっているんだよね。書き順だか何だか、なぞるのをね。あれはすごい効果があると思いました。特に右利きじゃなくて、左利きの子が書き順とか書き方をやるときに、漢字は右で書くような字になっているんでしょうね。それをやっているのは、タブレットでは効果的なので、それを見ていてすごく思いました。

そして、もう一つは、取り留めのないことを言っていますけれども、よく私も一生懸命英語の単語を夢中でたくさん書いて覚えるみたいなことをやっていました。小学校の低学年ぐらいまでは、字を見て覚えているんだよね。書いて覚えるよりも、見て覚える。何ていうか頭に入れる、形で覚えている。こういったようなものも、ICTを活用するときには頭に入れ

て普及活動をするのがいいのかなと思いました。

あまりまとまりのない話でしたけれども、以上です。

○（佐藤教育長） 大貫委員さんの意見に関して、何かありますか。

教育開発センター所長。

○（瀧教育開発センター所長） 最初のICTを使うことがテレビゲームにつながっているという部分ですけれども、今の時代、学校で当然ICTをGIGAスクールの関係でも使っていますし、子ども達の中で自分のタブレットを持っていたりスマホを持っていたり、そういう状況ではあるのかなと思います。

その中で、テレビゲームをするだとか、遊びに使うだとか、その辺の取捨選択をしていく、自分で調整していくという力というのも、大事な事なのかなと思いますので、一概にICT機器があるからいけないというわけではなくて、自分でそれをどういうふうに活用していくのか、例えば調べ学習をするために使っていく必要性があったら使うなど、先ほど言いましたけれども、自己調整力という部分がこれから必要になっていくのかなと思います。そのあたりは自己判断の部分はあるかなとは思いますが、学校の学習の中で、何のためにそれがいいのか、学校で使う場合は、何のためにあるのか、家庭に持ち帰っても、どういうことでICT機器を持ち帰っているのかというところは、学校できちんと指導していただいて、家庭にも理解していただくということは必要になってくるのかなとは思っています。

後半のICT機器の活用の部分ということで、筆順等々ありましたけれども、今、先生方も新しいものが入ってきて、この2年ぐらいICT機器をどういうふうに使っていくのか、道具として利用していくのかというのが、非常に迷いながらやっているところではあるのかなと思います。今までどおり黒板、ノートを使うという部分と、ICTをどう取り入れていくかというところを試行錯誤しながらの部分もあるかなと思います。また、よりよい方法等がありましたら、教育研究会のICT部会等がありますので、情報交換をして、いい活用方法というのを見いだしていければなと思っております。

以上でございます。

○（佐藤教育長） 大貫委員。

○（大貫委員） ありがとうございます。

この数字、特に生活質問調査に関する紙で、こんなにたくさんテレビゲームみたいなものをやっちゃっていること、実は私たちが小学校ぐらいの時に、同じ数字だったんですよ。テレビをずっと見る。それから、うちへ帰って勉強を一切しない。それが誰だっけ、大宅壮一

だったか、一億総白痴化なんていって心配された時代が私たちの時代ですよ。だから、私はあまり心配していないんですよ、個人的には。だんだん成長するにつれて大人になるにつれて、それなりに社会からも影響を受けたりするから、あんまりこの数字を困った困ったと、先生方に家庭と連携してどうにかしましょうなんて思っても、あまりそんなに改善はしないと思うので、あまり責めないようにしてほしいと思っています。

以上です。

○（佐藤教育長） 他にありますか。

梅澤委員。

○（梅澤委員） 頂いた学校だよりの中に、ゲーミフィケーションの活用と書かれている学校がありました。半分賛成で半分誤解だなと思いながら、あの記事を見ました。ゲーミフィケーションというのは、いろんなものをゲーム化しよう、例えばそれは黒板を使ったものでもいいし、紙を使った活動でも、あるいは身体を使ったものでも構わない。従来ただ書いて覚えるようなものを少しゲーム化してみんなに達成をさせたり、競争をさせたりする、ゲーム化するというそういう学習方法ですね。あるいはワークショップの在り方ですね。

一方で、そちらの学校だよりには、ICT機器を使う時間が異常に長い、テレビゲームばかりやっているから、テレビゲームの代わりにこの端末でアプリを入れてという形で、つまり子ども達が遊びのためだけにやっている端末でのゲームの中に、学習的な要素を取り入れようという形で、かなり歪曲された表現だったかなというふうに私は見えています。

もちろん分かった上で、そこを積極活用しようとしているのではないかというふうに読み取れるんですが、ゲーミフィケーションという言葉が使われていたので、それが保護者や子ども達に間違っって伝わらなければいいなと。この中でゲームをすることがゲーミフィケーションではないということを、今度の校長会等で、お分かりだと思んですけども、ご確認いただいて、いろんなものをゲーム化することで楽しさとか、おもしろさの中でできるようにさせちゃおうという教育方法だということです。

私もむしろここでパソコンを開いているぐらいなので、全く不要なものではないというか、むしろこれから重要なものになるでしょうし、数年後には1人1台の端末で全国学力・学習状況調査を全部の学校がするようになります。間違いなく。うちの附属でも、もう1校やっていますので。

そうなったときに、まさに大貫委員がおっしゃるように、この端末が悪いわけじゃなくて、それとの付き合い方をどう学ばせるか。まさに瀧所長の言うとおりでと思いますので、ぜひ

そのあたりも各学校にご理解いただけるように、働きかけていただきたいというふうに思います。

○（佐藤教育長） 他にございますか。

（発言する者なし）

○（佐藤教育長） いろいろとご意見をいただきましたので、校長先生方との協議の中で前向きに進めていきたいと思います。

それでは、他に質疑ありませんので、令和4年度全国学力・学習状況調査の結果と今後の展望については、ご了承願います。

◎閉会

○（佐藤教育長） 以上で本日の案件が全て終了いたしました。各委員からご意見、ご感想等ありましたらお願いいたします。

（発言する者なし）

○（佐藤教育長） よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○（佐藤教育長） 事務局から何かございますか。

（「特にございません」との声あり）

○（佐藤教育長） 以上で11月の定例会の議事日程が全て終了いたしましたので、閉会としたいと思います。ご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○（佐藤教育長） ご異議ないものと認めます。

よって、11月の定例会を閉会といたします。大変お疲れさまでした。

なお、次回の教育委員会定例会は、12月13日、9時からこの201会議室で開催しますので、よろしくをお願いいたします。

愛川町教育委員会会議規則第17条第2項の規定により、ここに署名をいたします。

令和4年12月13日

教育委員会教育長

佐藤 昭明

教育委員会

教育長職務代理者

大貫 洋

教育委員

梅澤 秋久

教育委員

教育委員

齋 郷 浩之

調整職員

阿部 成彦